

2. 火山の概況

(平成 16 年 1 月 1 日 ~ 平成 16 年 1 月 7 日)

期間中、5 火山の火山活動度レベルに変化はなかった。浅間山では地震がやや多い状態が続いた。阿蘇山では中岳第一火口の浅部の熱的な活動が依然として活発であった。桜島では一時的に地震がやや増加した。

霧島山では御鉢の火山活動がやや低下していたが、3 日以降に再び活発になった。

その他の火山については、三宅島では噴煙活動が継続し、多量の火山ガスの放出が続いた。福徳岡ノ場では変色水が確認された。諏訪之瀬島では噴火があった。

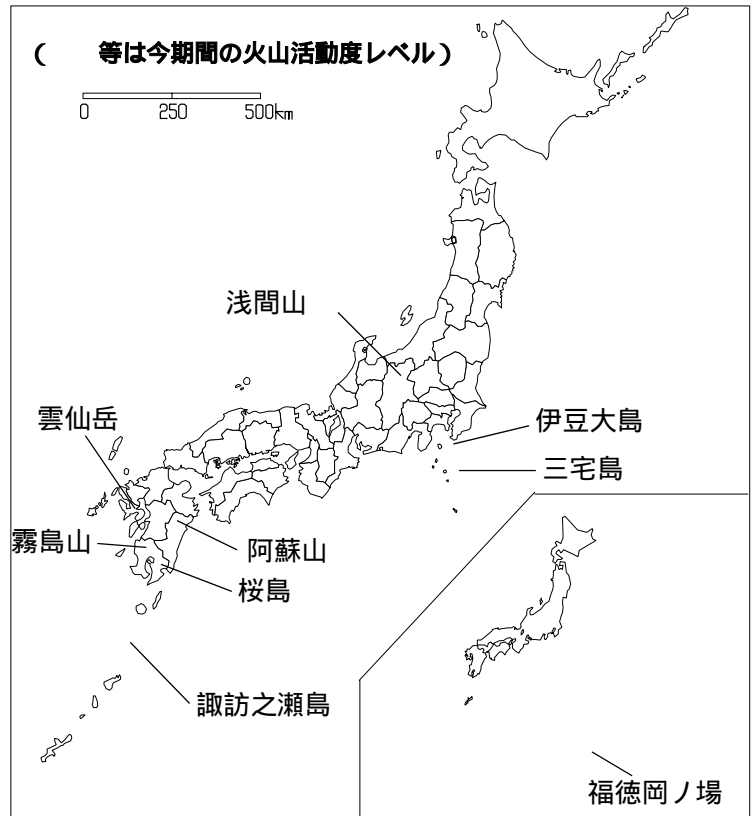


図 1 記事を掲載した火山

表 1 最近 1 か月に記事を記載した火山

号	対象期間	浅間山	伊豆大島	阿蘇山	雲仙岳	桜島	樽前山	吾妻山	焼岳	三宅島	福徳岡ノ場	霧島山	諏訪之瀬島
		レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号
2	1/ 1- 1/ 7												
1	12/25-12/31												
52	12/18-12/24												
51	12/11-12/17												
50	12/ 4-12/10												

注 1 記号の意味

- : 噴火した火山
- : 観測データ等に変化があった火山
- : 前期間まで や で掲載した火山の、その後の状況等
- : その他記事を掲載した火山
- 等の丸付き数字**: 火山活動度レベル

注 2 本文の火山名の後ろの[噴煙・噴気・地震・微動・空振・地殻変動・熱・火山ガス等]は、変化があった観測データ項目を示す。

浅間山 [地震・微動・噴煙・熱] レベル: 2 (やや活発な火山活動)

昨年 6 月末頃からやや多く観測されるようになった振幅の小さい地震は、今期間も 1 日あたり 30 ~ 54 回とやや多く観測された。振幅の小さい微動は 4 日に 2 回、7 日に 1 回の計 3 回観測された (前期間も 3 回)。

山麓の監視カメラによる噴煙観測では、火口から少量の白色噴煙の噴出が継続した。噴煙高度の最高は火口縁上 300m (7 日) で、特に大きな変化はなかった。

群馬県林務部が火口縁に設置している赤外カメラでは、火口底で引き続き高温部が観測されたが、高温部の面積は徐々に縮小しており、浅部の熱的な活動に低下傾向がみられる。

伊豆大島 レベル: 1 (静穏な火山活動)

地震活動は静穏で、噴煙は確認されなかった。また、地殻変動等、その他の観測データにも異常な変化はなかった。

三宅島 [火山ガス・噴煙・地震]

7日に気象庁が行った火山ガス観測¹⁾では、二酸化硫黄の放出量は日量11,000～14,000トンと、長期的には低下傾向がみられるものの依然多い状態であった(図2)。また、同時に気象庁が大学合同観測班と共に行った上空からの観測¹⁾では、火山ガスを含む青白い噴煙が南山麓へ流下していた。火口内の状況に変化はなかった。赤外カメラによる火口内の最高温度は229℃と依然高い状態であった。

監視カメラによる噴煙の観測では、引き続き活発な噴煙活動が続いており、白色の噴煙が最高で火口縁上600mまで上がった(6日)。

振幅の小さいやや低周波の地震の回数は、1日あたり44～63回とやや多い状態で推移した。

GPSによる地殻変動観測では、昨年6月頃から再び三宅島の収縮傾向を示している。

1) 航空自衛隊の協力による

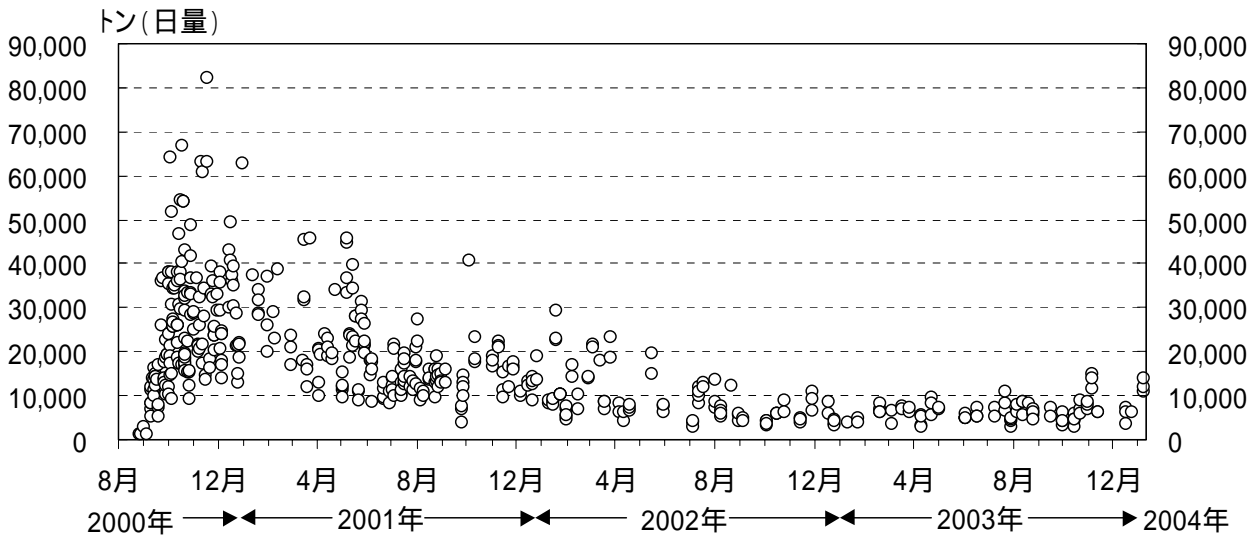


図2 三宅島 二酸化硫黄放出量の推移(2000年8月26日～2004年1月7日)

福徳岡ノ場 [変色水] <前期間>

海面に変色水が確認された。

前期間の昨年12月29日に海上保安庁第三管区海上保安本部が行った上空からの調査によると、福徳岡ノ場付近の海面で、薄い黄緑色の変色水が、北西方向に長さ約2km、最大幅約100mで帯状に伸びているのが確認された。軽石等の浮遊物はなかった。

なお、今年1月6日に再度同本部が行った上空からの調査によると、福徳岡ノ場付近の海面に変色水等の異常は確認されなかった。

福徳岡ノ場では、1972年以来、毎年変色水が確認されており、昨年も3月11日、11月5日と29日、12月5日と20日、そして29日に確認されている。

阿蘇山 [熱・地震・微動] レベル：2(やや活発な火山活動) <期間外の記述を含む>

中岳第一火口の浅部の熱的な活動が活発で、孤立型微動が多い状態で推移した。

中岳第一火口内の状況は、5日に実施した現地観測によると、湯だまりの量は約4割となり、湯だまりの色は灰色、中央部では引き続き噴湯現象が見られた。湯だまりの表面温度は79℃(前回の観測は昨年12月18日で75℃)、南側火口壁の温度は412℃(前回の観測時は噴煙のため観測できず)と、ともに依然高い状態が続いていた。8日に実施した現地観測では、湯だまりの状態は5日と変わらず、湯だまりの表面温度は78℃、南側火口壁温度は355℃と引き続き高温であった。

噴煙の状況は、火口から白色噴煙の噴出が継続した。噴煙の高さの最高は火口縁上500m(3日、4日)で、特に大きな変化はなかった。

地震及び微動の発生状況は、B型地震が32回(前期間は128回)、孤立型微動が1,889回(前期間は1,769回)と引き続き多い状態であった。

A型地震の発生状況、GPS等による地殻変動の観測データには特に異常な変化はなかった。

雲仙岳 レベル：1（静穏な火山活動）

地震活動、噴煙活動とも静穏であった。その他の観測データにも異常な変化はなかった。

霧島山 [微動・噴気・地震]

低下傾向にあった御鉢の火山活動が再び活発になった。

1月3日06時36分から、御鉢付近が震源とみられる継続時間55分の微動が発生した。御鉢付近では、昨年12月12日に継続時間40分の微動が発生し、それ以降、新たに生成した噴気孔から活発な噴気活動が起こるなど火山活動が活発になっていたが、今回の微動は継続時間と最大振幅のいずれもそれを上回るものであった。

1月3日の微動の発生後には、低下傾向にあった御鉢の噴気活動が一時活発になった。御鉢の噴気は、昨年12月23日以降は火口縁を越えることがなく、12月25日の上空からの観測¹⁾では噴気孔から高さ70mまで上がっている程度であったが、1月3日07時～15時には監視カメラで火口縁上100～200mまで上がるのが観測された。また、同日の上空からの観測²⁾でも、火口縁上100mまで勢いよく上がっているのが確認された。しかし、1月5日に実施した現地観測及び上空からの観測³⁾では、噴気の勢いは弱まり、噴気孔から高さ30～50m程度まで上がっていた。なお、この現地観測で、新たに南側火口縁付近から噴気が約5m程度の高さまで出ているのが確認された。

昨年12月12日の継続時間が長い微動の発生後から増えていた御鉢付近を震源とする微小な地震は、減少傾向にあったが1月3日の微動後から増加し、期間中の回数は24回（前期間は6回）となった。

GPSや傾斜計による地殻変動観測等のその他の観測データには、異常な変化はみられなかった。

1) 宮崎県の協力により実施 2) 鹿児島県の協力により実施 3) 九州地方整備局の協力により実施

桜島 [噴煙・地震] レベル：2（比較的静穏な噴火活動）

期間中、噴火はなかった（前期間もなし）。噴煙の状況は、火口から白色噴煙の噴出が継続した。噴煙高度の最高は火口縁上700m（4日）であった。鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）では降灰はなかった（前期間もなし）。

昨年12月31日～今年1月1日にかけて、桜島島内の南西側、深さ7km付近を震源とするA型地震がやや多くなった。桜島では1999年にA型地震がやや多くなった後、しばらく期間をおいて噴火活動が活発化した事例がある。

諏訪之瀬島 [爆発・噴煙・降灰]

期間中、爆発が3回発生した（前期間は4回）。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、3日、7日に火山灰を含む噴煙が上がり、6日夜には集落（御岳の南南西約4km）で降灰があった。

火山性地震及び微動の発生は少なかった。

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報第1号 (1日1回発表)	1日 16:30	活動経過ほか（噴煙・地震・微動・空振・火山ガス・地殻変動の状況、上空からの観測結果、及び上空の風・火山ガスの移動予想）。
	火山観測情報第4号	4日 16:30	
	火山観測情報第5号	5日 09:30	
	火山観測情報第6号 (1日2回発表)	5日 16:30	
	火山観測情報第10号	7日 16:30	
阿蘇山	火山観測情報第1号	5日 14:45	火山活動がやや活発（孤立型微動が引き続き多い、中岳第一火口の熱的な状態が高く、湯だまりは約4割）。火山活動度レベルは2。

霧 島 山	火山観測情報第 1 号	2 日 15:00	御鉢の火山活動はやや収まった（地震回数が減少、噴気活動低下）。
	火山観測情報第 2 号	3 日 13:00	継続時間の長い微動が発生し、噴気が活発になり、地震も多くなった。
	火山観測情報第 3 号	5 日 15:20	噴気活動は低下しつつ継続、地震は多い状態。